

別紙 1 初回清掃

<業務内容>

1 作業準備

作業前に次の事項を必要に応じ行う。

- (1) プールの構造、材質の確認
- (2) 校舎とプール間における分岐電源の復旧通電
- (3) 校舎とプール間における給水配管の復旧通水
- (4) バルブ専用ハンドルの確保
- (5) プール各種バルブ（排水、水位調整、循環水抜、循環切替）の開放又は閉鎖
- (6) 加圧ポンプの作動
- (7) 電磁弁の閉鎖
- (8) 汚水ポンプの作動

2 作業内容

(1) ゴミの撤去

プール内に散在する枯葉、小石等ゴミを除去する。

(2) 玄関ホール・トイレ等の床面

プール室内と玄関ホールやトイレ等の床面が連続している場合は、形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

(3) スキマー

プール内のスキマーを撤去回収し、回収したスキマーは、洗浄しプールサイド清掃終了後取り付ける。

(4) 上屋壁面

プールサイド床面より高さ 2 m 程度の構造鉄骨、胴縁、タオル掛を形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

(5) プールサイド

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ 次亜塩素酸ナトリウム水溶液（濃度 100ppm 程度）を均一散布し、圧流水で流し、残留水を除去して仕上げる（以下「殺菌洗浄」という）。

(6) プールサイド排水溝

形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(7) 洗体設備

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

イ 腰洗槽及びフートバスは、残留水を除去して仕上げる。

(8) オーバーフロー

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ デッキレベル型オーバーフローは、可能であればグレーチングを取り外して殺菌洗浄する。

(ア) グレーチングを止めてあるビス等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。

(イ) グレーチングを取外し、その裏面に番号を書きこむ。

(ウ) 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(エ) グレーチング裏面の番号どおり取り付ける。

(オ) 止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。

(9) プール本体（壁面）

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ リセス型等低水位オーバーフロー設置校は、残留水を除去して仕上げる。

(10) プール本体（底面）

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄し、残留水を集水マスへ落とし込む。逆流する場合は、残水処理装置等を用いて除去する。

イ 底面陥没等により残留水が滞留する場合は、残水処理装置等を用いて除去する。

ウ 水位調整貯水槽に冬期間中の滞留水が貯水槽内にある場合は、揚水ポンプを用いて排出する（水位調整貯水槽設置校のみ）。

エ 水位調整貯水槽を形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、残留水を揚水ポンプを用いて排出する（水位調整貯水槽設置校のみ）。

オ 水位調整貯水槽の砂溜り部分の残留物を、湿式掃除機等で除去する（水

位調整貯水槽設置校のみ)。

(11) 集水マス

- ア 格子蓋を止めてあるネジ等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。
- イ 格子蓋を取外し、形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。
- ウ 砂溜り部分の土砂及び汚水は、湿式掃除機や揚水ポンプを用いて排出する。
- エ 底面給水方式の場合は、給水管と排水管の分岐点までの管内部を洗浄する。
- オ 格子蓋を取付け、止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。

(12) 底面吐水金具とガーター溝

- ア 底面吐水金具にアルミ箔粘着シール等が貼付されている場合はそれを剥がす。
- イ ガーター溝の滞留水を湿式掃除機や残水処理装置等を用いて除去する。
- ウ ガーター溝にグレーチングがある場合は、グレーチングを取外し作業する。
 - (ア) グレーチングを止めてあるビス等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。
 - (イ) グレーチングを取外し、その裏面に番号を書きこむ。
 - (ウ) ガーター溝の滞留水を湿式掃除機や残水処理装置等を用いて除去する。
 - (エ) グレーチング裏面の番号どおり取り付ける。
 - (オ) 止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。

(13) 給水

清掃を終了した場合は、次の事項を必要に応じて行い、プール内に委託者が指定する水位まで給水する。

- ア 排水管、循環水管を通水洗浄する。

- イ 貯水に必要な各種バルブを閉鎖する（給水を行わない場合も同様）
- ウ 指定水位にするための水位調整操作を行う。
- エ 満水状態で滞りなく循環ろ過運転ができるための操作を行う。

別紙 2 換水清掃

<業務内容>

1 作業準備

作業前に次の事項を必要に応じ行う。

- (1) プールの構造、材質の確認
- (2) 校舎とプール間における分岐電源の復旧通電
- (3) 校舎とプール間における給水配管の復旧通水
- (4) バルブ専用ハンドルの確保
- (5) プール各種バルブ（排水、水位調整、循環水抜、循環切替）の開放又は閉鎖
- (6) 加圧ポンプの作動
- (7) 電磁弁の閉鎖
- (8) 汚水ポンプの作動
- (9) 備品等の移動

2 作業内容

(1) 排水

ア 学校が事前に水位 20 cm～30 cm程度まで排水しているため、全部換水を行うために必要な排水措置措置を行う。

イ 水位調整貯水槽内の排水に必要な措置を行う。

(2) スキマー

プール内のスキマーを撤去回収し、回収したスキマーは、洗浄しプールサイド清掃終了後取り付ける。

(3) 上屋壁面

プールサイド床面より高さ 2 m程度の構造鉄骨、胴縁、タオル掛を形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

(4) プールサイド

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ 次亜塩素酸ナトリウム水溶液（濃度 100ppm 程度）を均一散布し、圧流水で流し、残留水を除去して仕上げる（以下「殺菌洗浄」という）。

(5) プールサイド排水溝

形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(6) 洗体設備

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

イ 腰洗槽及びフートバスは、残留水を除去して仕上げる。

(7) オーバーフロー

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

イ デッキレベル型オーバーフローは、汚れがある部分は可能であればグレーチングを取外して殺菌洗浄する。

(ア) グレーチングを止めてあるビス等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。

(イ) グレーチングを取外し、その裏面に番号を書きこむ。

(ウ) 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(エ) グレーチング裏面の番号どおり取り付ける。

(オ) 止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。

(8) プール本体（壁面）

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ リセス型等低水位オーバーフロー設置校は、残留水を除去して仕上げる。

(9) プール本体（底面）

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄し、残留水を集水マスへ落とし込む。逆流する場合は、残水処理装置等を用いて除去する。

イ 底面陥没等により残留水が滞留する場合は、残水処理装置等を用いて除去する。

ウ 水位調整貯水槽を形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、残留水を揚水ポンプを用いて排出する（水位調整貯水槽設置校のみ）。

エ 水位調整貯水槽の砂溜り部分の残留物を、湿式掃除機等で除去する（水位調整貯水槽設置校のみ）。

(10) 集水マス

- ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。
- イ 汚れがある部分は格子蓋を取外し、形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。
 - (ア) 格子蓋を止めてあるネジ等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。
 - (イ) 砂溜り部分の土砂及び汚水は、湿式掃除機や揚水ポンプを用いて排出する。
 - (ウ) 底面給水方式の場合は、給水管と排水管の分岐点までの管内部を洗浄する。
 - (エ) 止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。

(11) 底面吐水金具とガーター溝

- ア ガーター溝の滞留水を湿式掃除機や残水処理装置等を用いて除去する。
- イ 汚れがある部分は、ガーター溝にグレーチングがある場合は、グレーチングを取り外し作業する。
 - (ア) グレーチングを止めてあるビス等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。
 - (イ) グレーチングを取外し、その裏面に番号を書きこむ。
 - (ウ) ガーター溝の滞留水を湿式掃除機や残水処理装置等を用いて除去する。
 - (エ) グレーチング裏面の番号どおり取り付ける。
 - (オ) 止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。
- ウ 底面吐水金具とガーター溝のグレーチングのビスを確認し、突出している場合は増締めする。また、ビス等無い場合やその他異常を発見した場合は各学校のプール担当者に連絡し確認すること。

(12) 給水

- 清掃を終了した場合は、次の事項を必要に応じて行い、プール内に委託者が指定する水位まで給水する。

- ア 排水管、循環水管を通水洗浄する。
- イ 貯水に必要な各種バルブを閉鎖する。
- ウ 指定水位にするための水位調整操作を行う。
- エ 満水状態で滞りなく循環ろ過運転ができるための操作を行う。

別紙 3 ロボット清掃

<業務内容>

1 作業準備

作業前に次の事項を必要に応じ行う。

- (1) プールの構造、材質を確認する
- (2) 校舎とプール間における分岐電源の復旧通電
- (3) 校舎とプール間における給水配管の復旧通水
- (4) 循環水切替えバルブの開放又は閉鎖
- (5) 加圧ポンプの作動
- (6) 備品等の移動

2 作業内容

(1) スキマー

プール内のスキマーを撤去回収し、回収したスキマーは、洗浄しプールサイド清掃終了後取り付ける。

(2) プールサイド

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ 次亜塩素酸ナトリウム水溶液（濃度 100ppm 程度）を均一散布し、圧流水で流し、残留水を除去して仕上げる（以下「殺菌洗浄」という）。

(3) プールサイド排水溝

形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(4) プール本体（底面）

ア 次の仕様のプールロボットを使用し必要時間清掃する。（概ね 3 時間）
なお、プールロボットは受託者が用意すること。

<プールロボット仕様>

形式：潜水式

馬力：550W（3 / 4 HP）以上

清掃能力：概ね 418 m² / h 以上

操舵：センターバー式完全自動

回転数：1,450 R P M 以上（50 H z）

(7) プールロボットは、プールサイドから投げ込むようなことはせず、プール側面及び底面を痛めないように、静かにプール底面に沈めること。

(イ) プールロボットが静止状態になった場合にそなえ、プールロボットを作動させている間、清掃作業員は常駐すること。

(ウ) 清掃後、プールロボットは無理やり引き上げるようなことはせず、プール側面及び底面を傷めないように、静かにプール底面より引き上げること。

イ プールロボットの使用のみでは清掃の完遂に支障がある場合は、他のプールクリーナー等を併用又は代用して清掃を行う。

(5) プール水面

ア 水面の浮遊物を網等で除去する。

イ 浮遊物の種類、量によっては、必要に応じプール水をオーバーフローより溢流させ部分換水の措置を行う。

(6) 洗体設備

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

イ 腰洗槽及びフートバスは、残留水を除去して仕上げる。

(7) オーバーフロー

ア 清掃可能な箇所について形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

イ デッキレベル型オーバーフローは、汚れがある部分は可能であればグレーチングを取外して殺菌洗浄する。

(ア) グレーチングを止めてあるビス等を取外し、ビス等を止めてあった場所がわかるよう分類して保管する。

(イ) グレーチングを取外し、その裏面に番号を書きこむ。

(ウ) 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(エ) グレーチング裏面の番号どおり取り付ける。

(オ) 止めてあった場所がわかるよう分類して保管してあったビス等を止めてあった場所に取り付ける。

3 プール水質

プール水質において必要がある場合は、以下の補正改善措置を行う。

- (1) 残留塩素濃度を測定し、改善処置が必要な場合はその旨を学校へ報告する。
- (2) 水素イオン濃度を測定し、その結果からPH調整に必要な措置を行う。
- (3) その他水質管理において必要な措置を行う。

4 循環ろ過装置

循環ろ過装置において必要がある場合は、ろ材の逆洗洗浄及びヘアーキャッチャー、ストレーナーの洗浄を行う。

なお、設備補修等の必要があると判断した場合は、直ちに学校長へ連絡すること。

別紙 4 最終清掃

<業務内容>

1 作業準備

作業前に次の事項を必要に応じ行う。

- (1) プールの構造、材質の確認
- (2) 校舎とプール間における分岐電源の切り離し
- (3) 校舎とプール間における給水配管の切り離し
- (4) バルブ専用ハンドルの確保
- (5) プール各種バルブ（排水、水位調整、循環水抜、循環切替）の開放又は閉鎖
- (6) 加圧ポンプの作動
- (7) 電磁弁の閉鎖
- (8) 汚水ポンプの作動
- (9) 備品等の撤去格納（必要があれば）

2 作業内容

(1) 排水

ア 排水を行うために必要な措置を行う。

イ 水位調整貯水槽内の排水に必要な措置を行う。

(2) スキマー

プール内のスキマーを撤去回収し、回収したスキマーは、洗浄しプールサイド清掃終了後取り付ける。

(3) プールサイド

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

イ 次亜塩素酸ナトリウム水溶液（濃度 100ppm 程度）を均一散布し、圧流水で流し、残留水を除去して仕上げる（以下「殺菌洗浄」という）。

(4) プールサイド排水溝

形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(5) 洗体設備

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

イ 腰洗槽及びフートバスは、残留水を除去して仕上げる。

(6) オーバーフロー

形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄する。

(7) プール本体（壁面）

ア 形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。特に人垢による汚れは固着化を防ぐため微細研磨材を用いて除去する。

イ リセス型等低水位オーバーフロー設置校は、残留水を除去して仕上げる。

(8) プール本体（底面）

ア 形状材質に応じた機材を使用し殺菌洗浄し、残留水を集水マスへ落とし込む。逆流する場合は、残水処理装置等を用いて除去する。

イ 底面陥没等により残留水が滞留する場合は、残水処理装置等を用いて除去する。

ウ 水位調整貯水槽を形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、残留水を揚水ポンプを用いて排出する（水位調整貯水槽設置校のみ）。

エ 水位調整貯水槽の砂溜り部分の残留物を、湿式掃除機等で除去する（水位調整貯水槽設置校のみ）。

(9) 集水マス

形状材質に応じた機材を使用し洗剤で洗浄の後、圧流水で流す。

(10) 底面吐水金具とガーター溝

ア ガーター溝の滞留水を湿式掃除機や残水処理装置等を用いて除去する。

イ 底面吐水金具とガーター溝の口は、最終清掃後、配管内部への汚水等侵入防止のため、アルミ箔粘着シール等を用いて目張り密閉する。なお、翌年度プール点検業者が点検するため、目張りはビス等を隠さない様にする。また、アルミ箔粘着シール等を用いる際は、プール本体の塗装に影響のないものを使用すること。